

令和 8 年度 第 6 回旭地域会議 会議録

■日 時 令和 8 年 9 月 10 日 (木) 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

■場 所 旭支所 2 階 第 1 会議室

■出席者

＜委員 14 名＞

伊藤和夫（会長）、鈴木雄也（副会長）、青木富美雄、安藤孝之、伊藤圭一、紀平純子、熊本ゆう子、後藤美咲、鈴木好美、成瀬一、成瀬初恵、西田又紀二、森下正人、渡邊渚

＜事務局＞

杉本憲彦（支所長）、児嶋勇吾（副支所長）、梅村祐子（担当長）、中村大樹（担当長）、山岡千裕（主査）

＜傍聴人 4 名＞

1 開会

2 会長あいさつ

3 意見交換

（1）教育についてのあれこれ

4 地域会議に関する連絡調整事項

（1）今後の内容について

5 支所長あいさつ

6 閉会

【内容】（要約）

1 開会

2 会長あいさつ

3 意見交換

（1）教育についてのあれこれ

2 グループに分かれて委員同士で意見交換を実施した。

<主な意見>

【親の負担について】

- ・学校や部活等の送迎（熊が出ると必須）で保護者の負担が大きい。共働き、核家族だと山村地域では母親がやることが多い。
- ・クラブ活動（部活とは異なる）に行くために、学校から直接地域バスに乗車して参加したいが、一旦通学バスで家に帰り、そこから親の送迎で参加する必要がある。
- ・親の送迎がないと何もできない。
- ・子どもを家に一人で置いておけない場合、母親が働き方を変えて対応している。
- ・学校が早上がりの時に、下校に仕事が間に合わず地域バスを利用して下校したこともある。
- ・地域に放課後の居場所が解放されているところがあるが、子どもだけでは学校から直接行って利用ができない。親が付き添って下校する必要があるため利用できない。

【子どもの居場所について】

- ・中学校に上がると学童がないので、中学校でも学童があるとよい。
- ・学校後に皆と過ごすことができる場所があるとよい。
- ・学校開放して、地域の人や子どもが過ごすことができる場所があるとよい。
- ・学校だけではなく、交流館等の地域の施設を有効活用できないか。昼間は地域の人利用、夕方からは学童で利用のような形など。
- ・子ども同士の家が離れているので友達の家というわけにいかない。
- ・習い事をやる場所が旭になくても足助あたりにあると良い。
- ・しきしまの家で英会話・習字教室をしようとすると営利で使用料が高く赤字になるので断念となった。

【地域との関わりについて】

- ・教育は子どもの教育だけではないと思う。生涯学習という観点で、全ての世代を含めて捉えてはどうか。シニアと子ども達の交流が、シニアたちの生きがいになるのではないか。
- ・学校へ親が迎えに行くことも、委託で他の人や団体ができるようになるとう

い。

- ・放課後の子どもの居場所や、通学の事、地域との関わりで何かできないか。
- ・地域と一緒に色々やるには、学校のカリキュラムの中では難しい。先生の負担が大きい。
- ・今はタブレットが主流になって人とのコミュニケーションの機会が減っている。人とのやりとりを大事にしていくというのを、この地域でやったらどうか。

【他の人との関わりについて】

- ・〈百聞は一見に如かず〉 中学生が他の中学校へ視察/見学をするとよい。
- ・世代を超えた/都市部との交流が良い。

【学校など（再編）について】

- ・旭地区に学校がなくなる危機感あり。
- ・小規模でよい。
- ・こども園から高校（猿投農林分校）まで
- ・開かれた/魅力のある学校（徳島と隠岐の島に事例あり?!）で移住者を呼び込む。
- ・山村留学を旭の学校もすると良い。

【その他】

- ・子育て環境がいいと思う一方、同級生がいない。今後も減っていくことに対しての話し合いも必要なのではないか。
- ・バスの乗り合いができない。予約の方法を変える等して何とかならないか。
- ・子ども達は今の環境をどう受け止めているのか掘り下げてみたい。我慢していることは、田舎の嬉しさはどうか聞いてみたい。

4 地域会議に関する連絡調整事項

(1) 今後の内容について

次回からの進め方について A 案：具体的テーマについて続ける、B 案：一旦どんな旭地区になるとよいかについてどちらが良いか意見交換を実施し B 案となった。

5 支所長あいさつ

6 閉会

— 午後 8 時 30 分 令和 8 年度第 6 回旭地域会議終了 —

以上